

## 令和元年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立亀田小学校

### 1 はじめに

3年間に及ぶ校舎の改修工事が終わり、毎年移動していた学校図書館の場所が固定されたため、昨年度までは図書館の環境を整えることを重点的に行ってきた。今年度、推進校になり、年間貸出冊数や学校図書館の機能面について現状を見直すと、課題が見えてきた。ここに一年間の取組を報告する。

### 2 亀田小学校の実態と課題

#### (1) 児童一人当たりの年間貸出冊数

＜亀田小の児童一人当たりの年間貸出冊数＞

2016年度 81.0冊

2017年度 92.0冊

2018年度 94.2冊

新潟市 118.1冊

◎校舎の改修工事があり、学校図書館の場所の移動があったが（2階→3階→1階）、一人当たりの年間貸出冊数は増えている。これまで80冊代だったが、ここ2年間は90冊を超えるようになってきている。

●新潟市の年間貸出冊数と比べると少ない。

#### (2) 学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能

##### ＜読書センター＞

- ・図書館の時間の確保
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ
- ・委員会活動での企画
- ・図書館の環境整備
- ・はかせ号（物語シリーズ賞）の設定
- ・夏休みの図書館開館

##### ＜学習センター＞

- ・各階にブックトラックを設置
- ・図書資料の整備と活用した図書資料の蓄積
- ・担任と連携した各教科等における学習支援

##### ＜情報センター＞

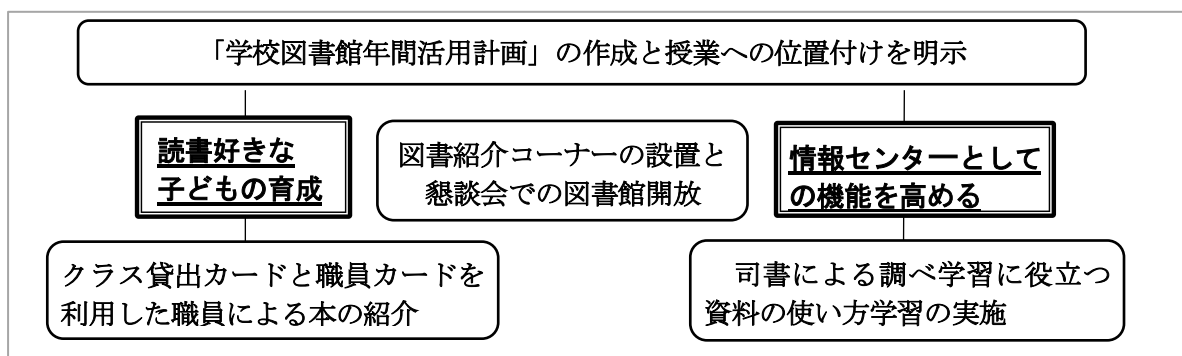
- ・新聞コーナーの設置
- ・情報カードの作成

●図書館活用年間指導計画を作成しなければならない。

●読書センターや学習センターとしての機能と比べると情報センターとしての機能が弱い。

### 3 今年度の取組

今年度は、本に触れる機会を増やし読書好きな子どもを育てることと、情報センターとしての機能を高めていくことを目指し、これまでの取組を継続しながら、次のことを新たに取組んだ。



#### 4 具体的な実践

##### (1) 「学校図書館年間活用計画」の作成と授業への位置付けを明示

職員が使いやすく、教科との関連が分かるものにするために、市小研図書館部が作成したものを参考にしながら、亀小が教科で使用している年間計画を活用して作成した。

4 学年		2019年 学校図書館活用年間計画										
月		4月(3)	5月(3)	6月(4)	7月(3)	8・9月(4)	10月(3)	11月(4)	12月(3)	1月(3)	2月(3)	3月(2)
学校図書館活用	調べ学習の技能	図書館のマナーとまじり 日本十進分類法 図書の使い方 契約の仕方 図書の読み方	資料の選び方 契約の仕方 図書の読み方 契約の仕方 図書の読み方	パンフレットの活用 楽譜・リーフレットの作り方 リーフレットの作り方	図書辞典の使い方 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	辞書の使い方 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	メモの取り方 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	テーマの決め方 契約の仕方 契約の仕方 契約の仕方	テーマの決め方 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用	辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用 辞書の利用
	学習に有効な図書	「花と葉の図鑑」(協栄社) 「食のくらしや食料」(ポプラ社) 「ポプラディア」(ポプラ社) 「こすもすと奥たち」(新日本出版) 「BOK辞書」(ポプラディア)	「クマノミとサリンゴの海」(協栄社) 「動物の図鑑」(ポプラ社) 「動物の図鑑」(ポプラ社) 「こすもすと奥たち」(新日本出版) 「BOK辞書」(ポプラディア)	BOK辞書4こみ リサイクル BOK辞書 紙化・エコロジー 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社)	BOK辞書 こみ リサイクル BOK辞書 紙化・エコロジー 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社) 「動物の図鑑」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)	「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社) 「教えて!21世紀」(協栄社)
国語	こわれた千の葉 O図書への行く 心の扉を研ぎよう	その取り方をくわしくして O図書への行く 心の扉を研ぎよう	走れ みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本	かきとよかったな O図書への行く みんなで作ろう A(5)希望と現実 努力と強い意志 Oローヤ本
社会	こみはどこへ 事故・事件のいまを まじりして	こみはどこへ 事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして	事故・事件のいまを まじりして

作成したものは、夏休み前に全職員に配付し、9月以降に活用予定のものや、今後活用できそうな単元を各学年で検討してもらった。教科と関連させながら計画を見ることで、様々な教科で図書資料を活用できることが分かり、国語や社会だけでなく、理科や図工、道徳、書写などでも図書資料を活用した学習を行っていた。

また、担任だけでなく出張授業に出る教師からも資料活用の要望が昨年より増えた。

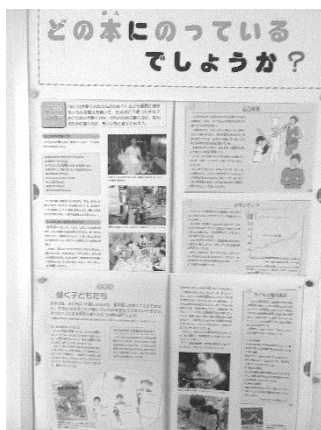
年間計画を使って検討してもらい、使いたい図書資料を早めに知らせてもらうことで、司書は計画的に図書資料を準備することができた。担任からは、図書資料が活用できる単元について新たに意見をいただき、書籍の購入や資料の準備に役立った。

##### (2) 読書好きな子どもを育てるために

###### クラス貸出カードと職員カードを利用した職員による本の紹介

毎年、貸出し用にクラスカードと職員カードが作成されているが、あまり利用されていなかった。そこで貸出カードがあることを職員に知らせ、職員が積極的に本を借りて教室に置いたり、子どもたちに紹介したりすることを願った。

###### (全校集会の校長講話で、読んでほしい図書の紹介)



子どもたちは、紹介された本を探しに図書館に来るようになり、順番に借りて読んでいた。また、紹介された本のことをよく覚えていて、しばらく時間が経ってから、「校長先生が紹介した本はどこにありますか。」「読んでみたいのですが」と、司書に聞いてくる子どもたちもいた。

(学習進度に合わせて、学習に関連する図書の紹介)



職員は、各教科の学習進度に合わせて学習に関連する図書を教室や廊下に展示したり、児童に読んでほしい本を紹介したりした。学級には、図書と一緒にワイヤースタンドも貸し出したため、教室や廊下に表紙が見える形で展示することができた。

また、担任だけでなく出張授業に出る教師も図書館から本を借り、担当される教科で図書資料を使った授業や図書の紹介を行ってくれた。

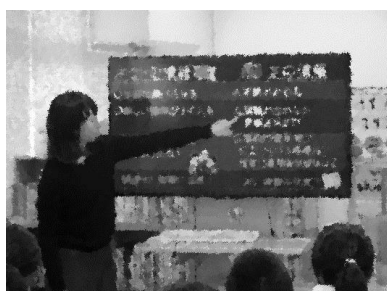
子どもたちは休み時間や下校時間などに、展示されている本を手にとって読んでいた。

(3) **情報センターとしての機能を高めるために**

司書による、調べ学習に役立つ資料の使い方学習の実施 (2～6年生)

子どもの情報活用能力を育成し、情報センターとしての機能を高めるために、後期の図書の時間に、図鑑や百科事典の使い方を学習する時間を設定し、2～6年生に実施した。

学年	テーマ	内容
2・3年	図鑑の使い方 (フレーベル館の図鑑ナチュレ)	①図鑑の説明 ②図鑑を使ってワークシートの問題を調べる。
4～6年	百科事典の使い方 (総合百科事典ポプラディア)	①百科事典の説明 ②百科事典を使ってワークシートの問題を調べる。



初めての取組であったが、児童は説明を聞き、実際に図鑑や百科事典を使って一生懸命調べていた。4～6年生には、調べたいものがあるときは百科事典から調べるとよいことを伝え、その後の学習では百科事典も手に取る姿が多くなった。

情報活用能力育成のためにも、今後

も計画的に資料の使い方学習をしていく必要があると感じた。

この学習の後に、自分の調べたいものがすぐに調べられるように、ブックトラックに図鑑と百科事典を置き、調べるコーナーを設置した。また、調べるコンクールの形式を参考にして「調べるはかせ号」をつくり、自分の好きなことや調べたいことを図書資料を使ってポスター形式にまとめられるようにした。そして、まとめたものは図書館前の廊下に掲示し、紹介できるようにした。

(4) **図書館前の廊下に紹介コーナーの設置と懇談会での図書館開放**

図書館は1階に設置され、体育館に行く廊下沿いにあるため人がよく通る。子どもたちだけでなく、保護者にも本に親しむきっかけを提供したいと考え、図書館前の廊下に本の紹介コーナーを設置し、参観日に併せて季節や行事に関する図書を並べて紹介した。さらに、学級・学年懇談会の子どもの待機場所を図書館にし、保護者が迎えに来たときに図書館を見てもらえるようにした。

子どもたちは興味をもって本を見たり、図書館に来て展示してあった本のことを司書に尋ねたりするようになった。



総合学習のスタートにあわせて「地域の資料」を紹介



ハロウィン・亀小フェスティバル「いろいろなフェスティバル」の紹介

## (5) プラスαの取組

### ①絵本の読み聞かせ講座の開催

地域教育コーディネーターが中心となり、保護者と地域の方に向けて絵本の読み聞かせ講座を今年度初めて開催した。

＜開催内容＞

#### 第1回 大人のためのおはなし会

講師 学校図書館支援センター

- ・読み聞かせの実演
- ・手遊び など

#### 第2回 読み聞かせの基礎知識

講師 読み聞かせボランティア

- ・おすすめ絵本の紹介
- ・声の出し方 など

講座の開催を小学校の保護者だけでなく、就学時健診でも告知したところ、新一年生の保護者も参加してくれた。また参加者の中から、読み聞かせボランティアに登録してくれる方もいた。

司書は講師を依頼したり、講座の開催に向けて資料を収集したりした。

子どもたちは、ボランティアによる読み聞かせの時間を楽しみにしている。読書好きな子どもの育成のためには、保護者が興味をもったり、ボランティアとして読み聞かせをしてくれる方がいたりすることが欠かせない。今後、参加者が増えていくことを期待したい。

### ②高学年に向けた本の選書について



子どもたちが夏休みに読書感想文を書いたり、読書旬間に下学年に向けて本の読み聞かせをしたりするときは、司書から図書の選び方についての説明を受けてから本を選び、活動に取り組んだ。

司書がたくさんの図書を用意していたため、選ぶのに困った子どもは参考になっていた。

本の読み聞かせについては、選書だけでなく、本の見せ方や読み聞かせ方についても教えていただき、真似をしながら練習することができた。

## 5 成果と課題

- 職員が推進校としての取組を理解し、図書を活用した学習を心掛けたり、図書館以外の環境を作ったりすることで、子どもたちの本に触れる機会が増え、いろいろなジャンルの本を手にとって読む姿が見られるようになった。また、地域教育コーディネーターと司書による絵本の読み聞かせ講座の開催は、保護者に読書に関心をもってもらうきっかけづくりになった。
- 現状を見直し、新規の取組をしたが、どれも負担が少ないため来年度も継続可能である。司書による資料の使い方学習については、継続の必要性を感じた。学習内容を加えながら系統的に情報活用能力を育成できるようにしていきたい。
- 今年度の全体計画には、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能が明記されていない。今年度、現状を見直すことで3つの機能が明確になったので、来年度は、3つの機能を明記して全体計画を作成したい。
- 本に触れる環境を作ることで、子どもたちが本を手取るようになってきている。しかし、学校や家で本を読まない子どもや読む冊数が少ない子どもがいる。読書の時間の確保や、「うちどく」を積極的に進める方向も考えていかなければいけない。

## 6 おわりに

本に触れる環境は整いつつあり、様々なジャンルの本を読むようにはなっている。今後は、読書の量や質を高める取り組みを行い、進んで読書をする子どもの育成に努めていきたい。